



2025年6月期 決算説明資料

株式会社 WOLVES HAND

2025年8月





Contents

1. 2025年6月期 決算の概要
2. 特徴・強み（競争力の源泉）
3. 今後の戦略



2025年6月期 決算の概要

1



2025年6月期 連結業績実績



- 売上高は既存病院の増収、M&Aを実施した(株)そよかぜ及び(株)バハティーの寄与もあり前年同期比+9.5%増収
- 営業利益についても、M&A関連費用57百万円、上場に伴う費用4百万円等の一時費用増加を吸収し前年同期比+9.9%増益

(単位：百万円)

	2024年6月期	2025年6月期	増減額	増減率	主な増減理由
売上高	4,990	5,463	+473	+9.5%	既存病院の増収、2024年8月にM&Aを実施した(株)そよかぜ、2025年2月にM&Aを実施した(株)バハティーが寄与
営業利益	827	909	+82	+9.9%	当期においてM&Aや上場に伴う一時費用等の計上により販管費が増加するも前年比増益
経常利益	800	908	+108	+13.4%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	558	593	+35	+6.2%	
EBITDA ※	1,150	1,259	+109	+9.5%	
1株当たり四半期純利益	75円20銭	79円34銭	4円14銭	+5.5%	

※EBITDA = 営業利益+減価償却費+のれん償却費

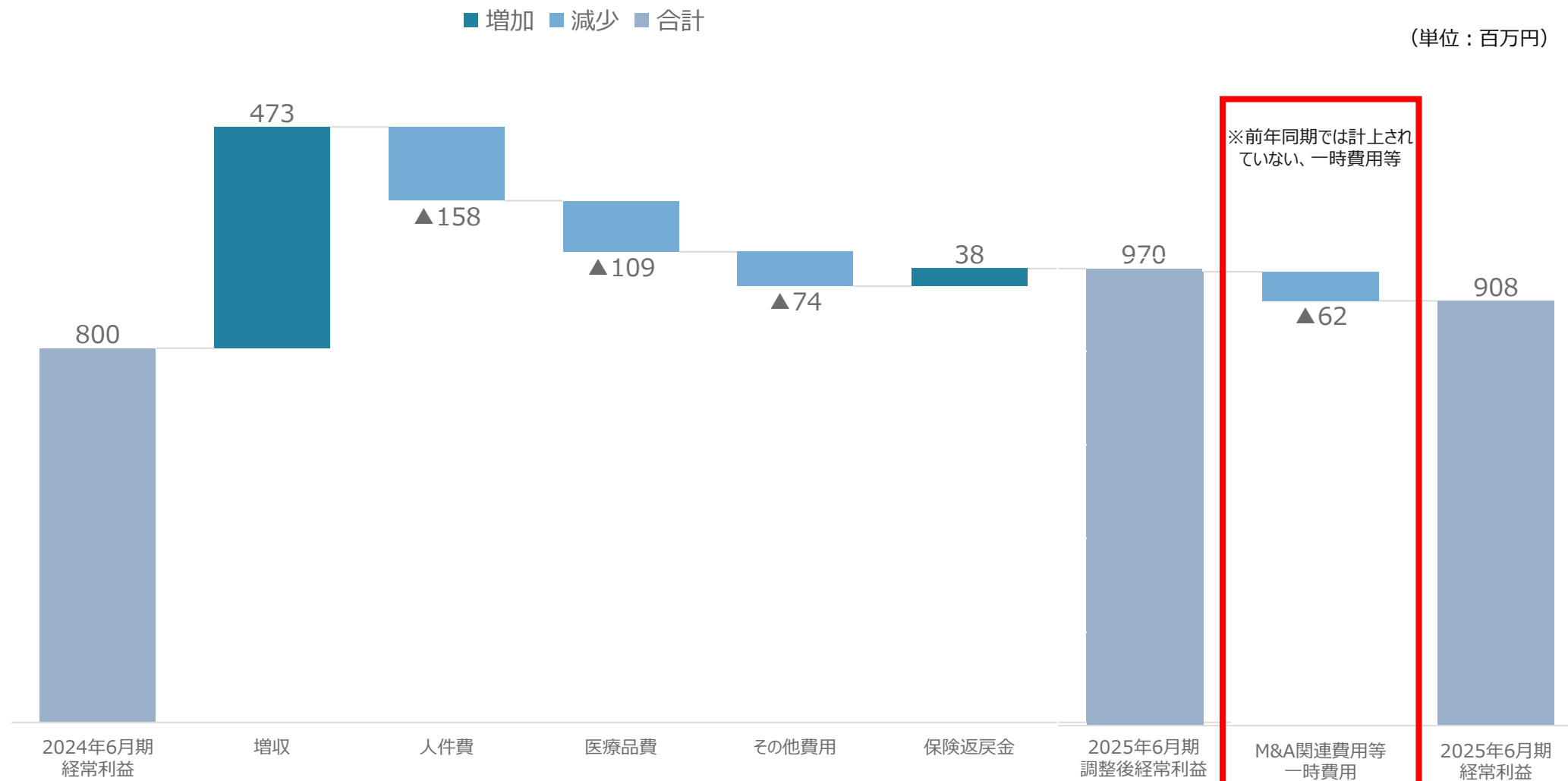
※参考	2024年6月期	2025年6月期	増減額	増減率	主な増減理由
前年同期比増加一時費用等	-	62	+62	-	M&A関連費用57百万円、株主総会等上場に伴う一時費用4百万円
調整後営業利益 ※	827	971	+144	+17.4%	

※調整後営業利益 = 営業利益+一時費用等

経常利益増減要因



- 人員の増加やM&A・上場に伴う費用等の一時費用が増加するも前年同期比増益となる



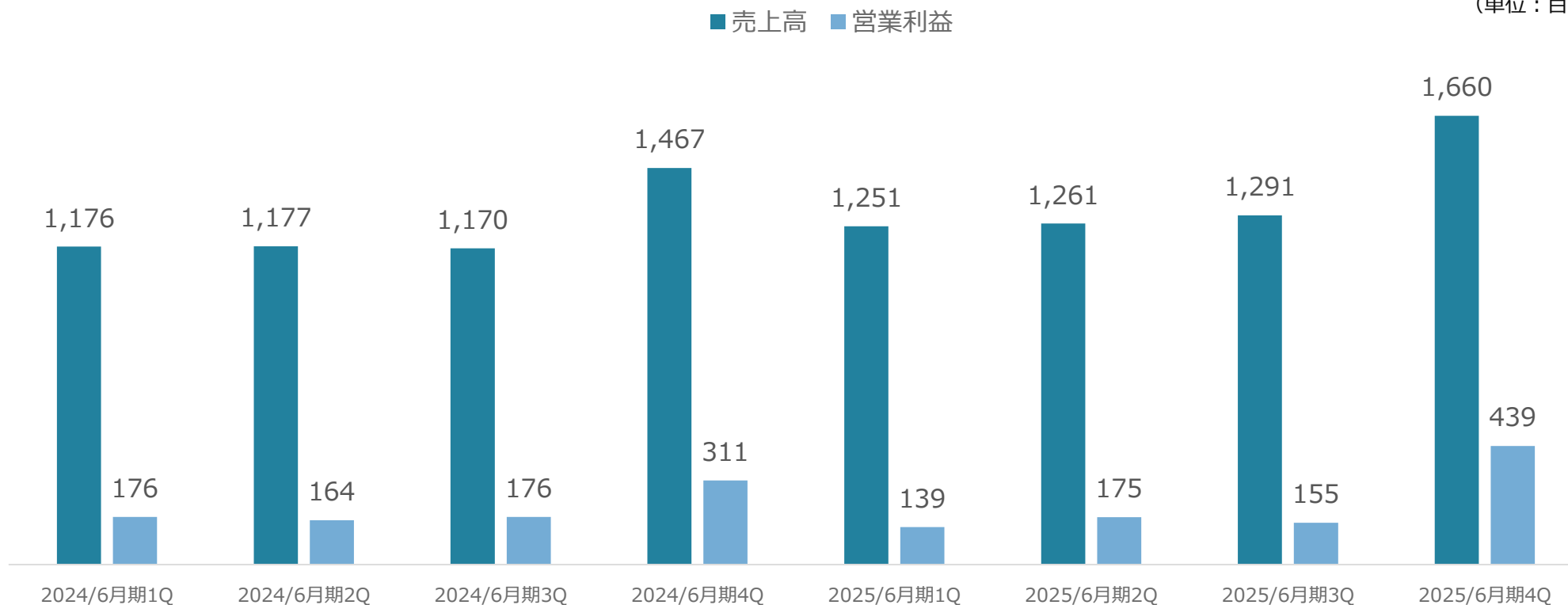
売上高・営業利益 四半期推移



- 既存病院の増収やM&A等によりQ o Qで増収となる
- 2025/6月期1Q、3Qでは、M & A 関連費用及び外形標準課税適用により販管費が増加
- 四半期における業績は、4Qにおいて売上高及び営業利益が偏重傾向

売上高・営業利益 四半期推移

(単位：百万円)



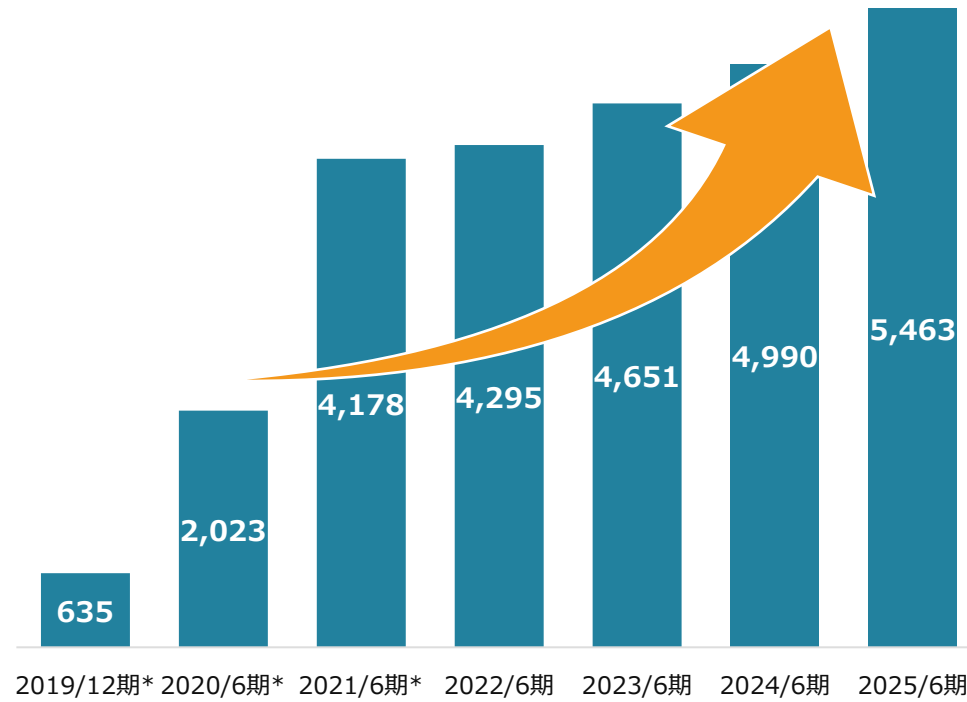
経営指標の推移

- 2019年の設立以降、増収増益を継続中、**6期連続増収増益を継続しており、過去最高売上高を記録**
- EBITDAマージンは20%超



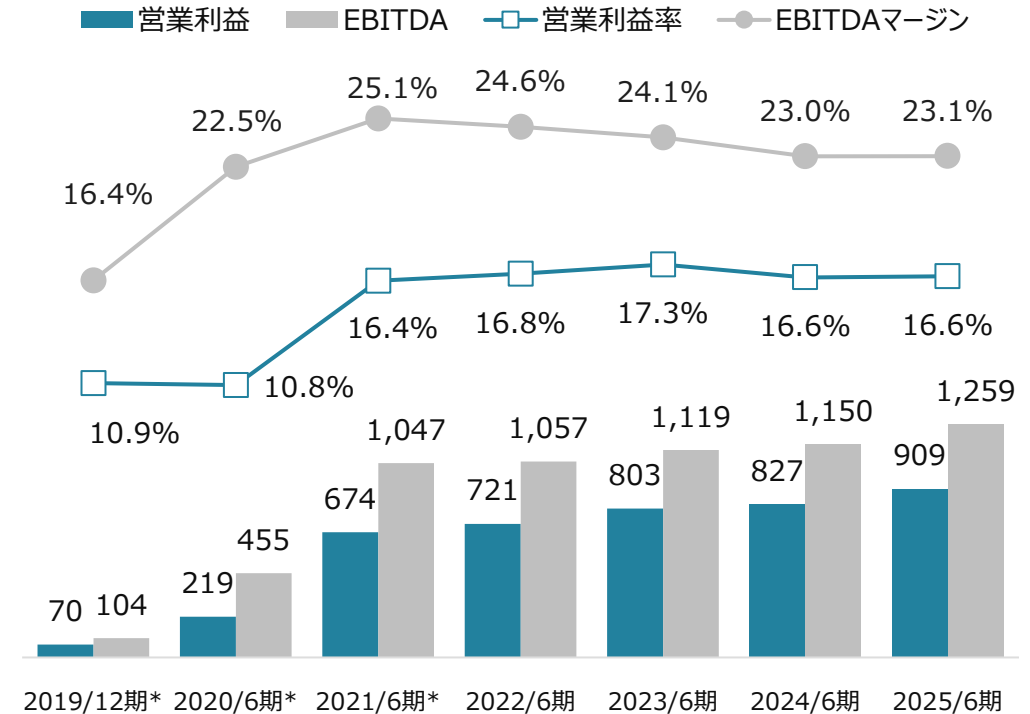
売上高の推移

(単位：百万円)



利益及び利益率の推移

(単位：百万円)



*EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

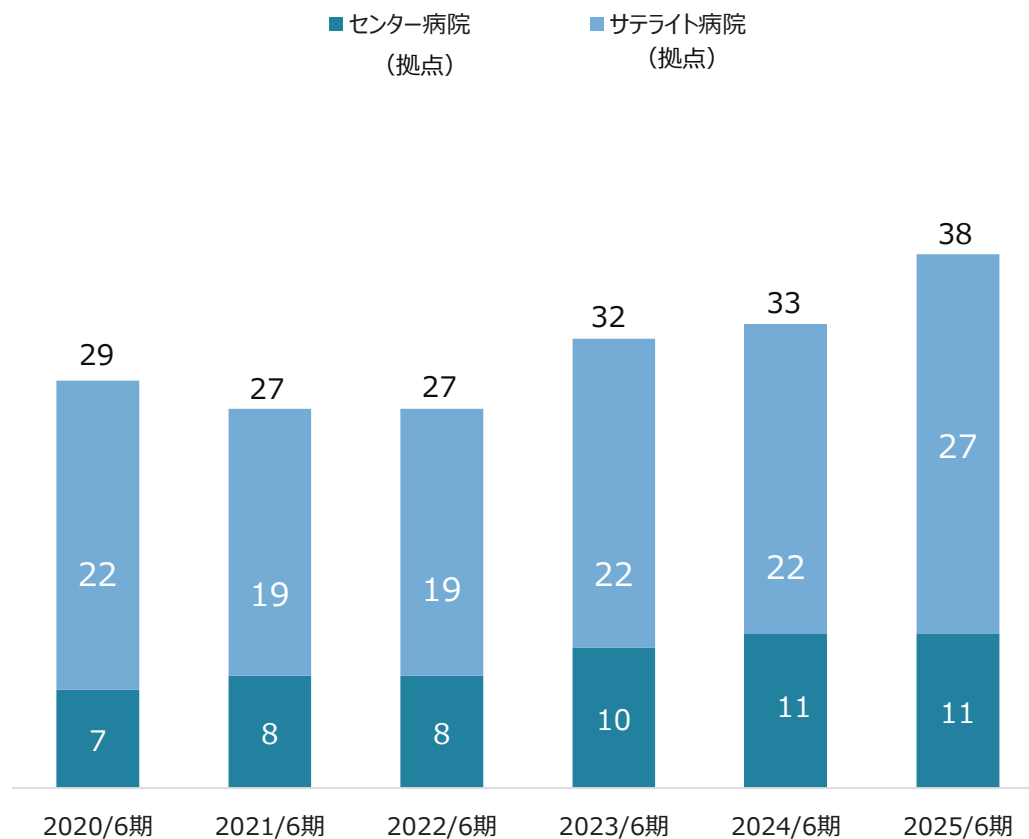
*2019/12期は9ヵ月、2020/6期は6ヵ月の変則決算（2019/12期は、2019/6に動物病院事業取込み、実質的に事業開始） 2021/6期以前は単体決算

動物病院数、診療件数&診療単価の推移

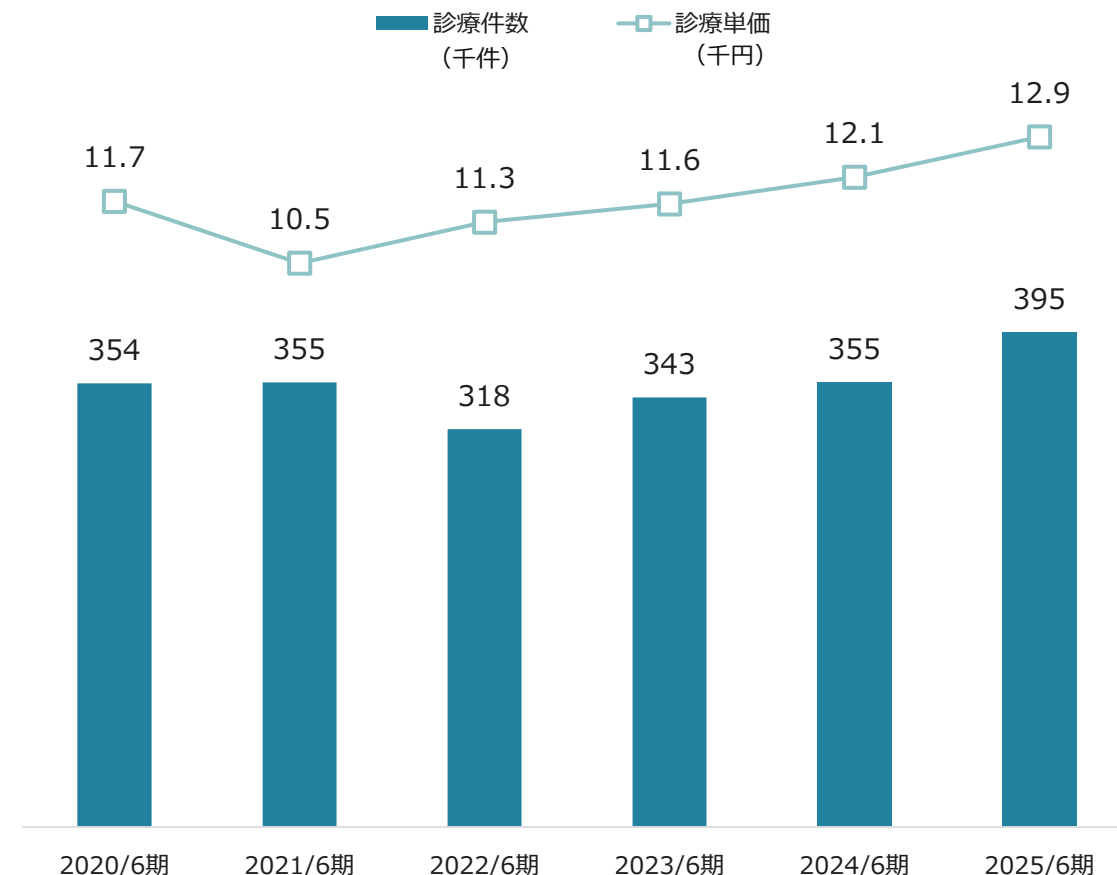
- 動物病院数は(株)そよかぜ及び(株)バハティーのM&Aにより4拠点、事業譲受により1拠点、自社開院した多摩の森動物病院1拠点の計6拠点増加する一方、高輪台動物病院1拠点を閉院したことで、2025年6月末時点で38病院となる。
- 診療件数は2022/6期以降増加中



動物病院数の推移



診療件数の推移



*2020/6期は6ヵ月の変則決算

バランスシートの状況

- (株)そよかぜ株式、(株)バハティ株式の取得等により現預金は前期末比微減
- 2025年6月期は、新規借入を行わずに手許資金でM&Aを実施したため、**自己資本比率が44.9%に上昇**しており、**財務健全性が強化**されている
- (株)そよかぜ、(株)バハティを連結範囲に含めたことにより固定資産は前期末比増加



(単位：百万円)

	2024年6月期	2025年6月期	増減額	主な増減理由
流動資産	1,297	1,387	+90	
現預金	910	895	▲15	(株)そよかぜ、(株)バハティ株式取得及び事業譲受による減少
売掛金	237	278	+41	
固定資産	4,487	4,662	+175	
建物及び構築物	861	849	▲12	
土地	1,624	1,624	+0	
のれん	1,471	1,653	+182	(株)そよかぜ、(株)バハティを連結範囲に含めたことによる増加
資産合計	5,784	6,049	+265	
流動負債	1,130	1,956	+826	
1年以内返済予定の長期借入金	457	1,154	+697	
未払法人税等	127	225	+98	
固定負債	2,540	1,377	▲1,163	
長期借入金	2,423	1,274	▲1,149	約定返済及び流動負債への振替による減少
負債合計	3,670	3,334	▲336	
純資産	2,113	2,715	+602	
負債・純資産合計	5,784	6,049	+265	
自己資本比率	36.5%	44.9%	+8.4%	



特徴・強み（競争力の源泉）

2





I

どんな症例にも一貫対応可能な動物医療シームレス体制

II

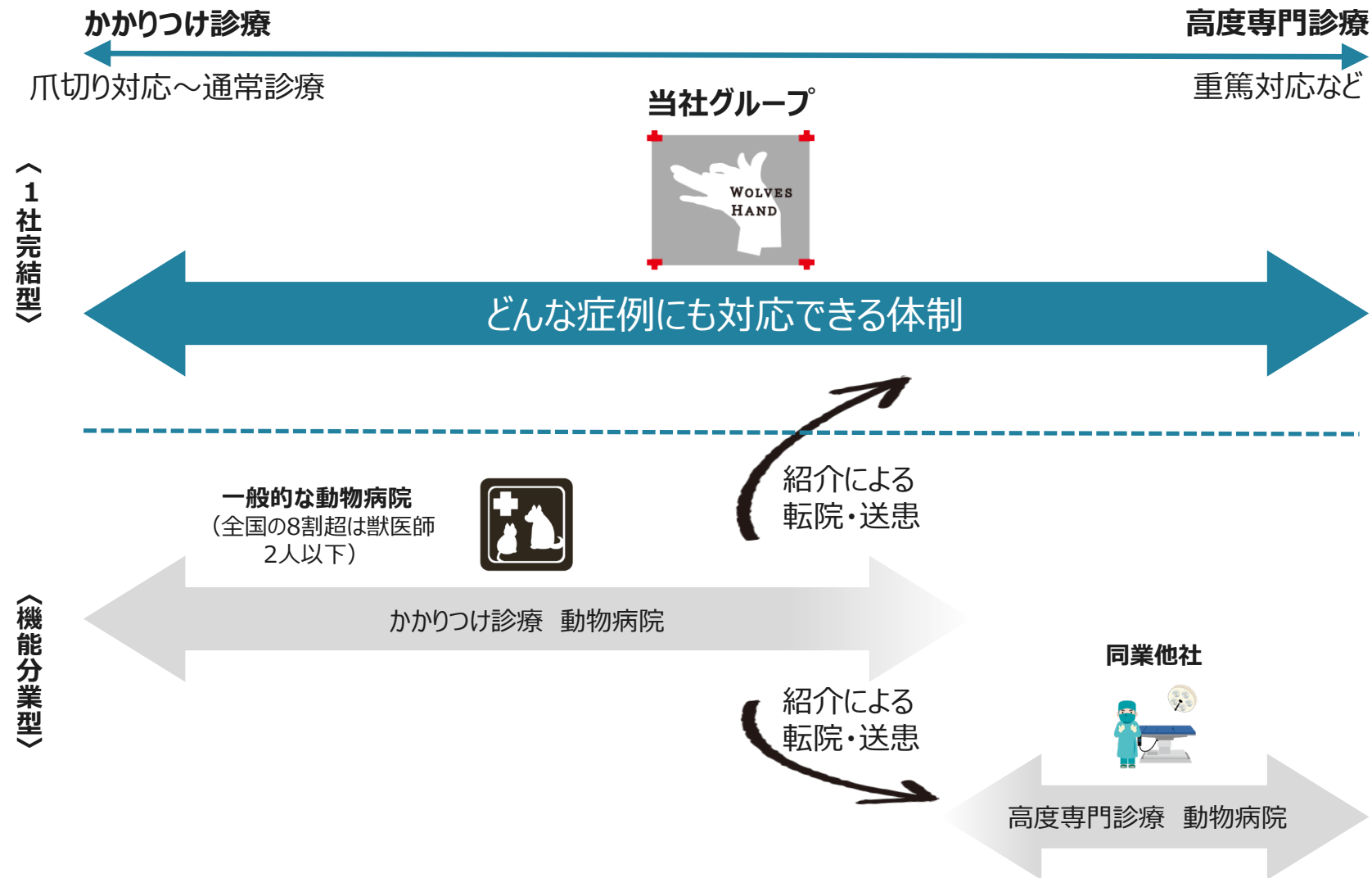
機会提供による獣医師診断力向上の仕組み

III

評判を軸とした事業拡大の好循環スキーム



- 一般的な動物病院は機能分業型が主流。かかりつけ診療と高度診療は別病院対応となっており、高度診療は紹介で受入れ
- 一方、当社はかかりつけ診療から高度専門診療まで一社で完結。外来・紹介双方にも対応できる一社完結型の動物病院は業界では少数派と認識



当社が選ばれる理由

動物飼い主の不安に対し結果を出し、ペットコミュニティでの口コミ、評判が浸透



- 動物飼い主の不安に対し、当社はそれらを緩和できる体制で対応
- 結果を出すことにより、近隣のペットコミュニティでの口コミ、評判浸透により、選ばれる対象に

動物飼い主の本音

- ✓ 動物は話せないため、どの病院が本当に腕が良いかわからない
- ✓ ペットが重い病気となった場合、病院のたらい回しは不安が募る
- ✓ 対ペット、対飼い主できちんとコミュニケーションしてくれる獣医師が有難い



WOLVES HAND

シームレス一貫体制により、飼い主の不安を緩和

- 高度医療も自社対応が可能なため、病院たらい回し回避を実現
- 当社病院で「必ず治療成果を出す」意識の徹底
- 通常医療も携わるため、普段から飼い主と密接なコミュニケーションを構築

近隣のペットコミュニティでの口コミ・評判浸透により、「選ばれる動物病院」に



- 当社の強みを持続させるには若手獣医師の実力育成は最重要課題
- 診療機会の提供、技術継承、人事適正化などにより、若手の向上意欲に訴求。早期戦力化システムとしてパターン化
- こうした若手獣医師の育成の仕組みがベテランに頼らず、新卒採用でのカバーを実現するカギに

経営の最重要方針

若手獣医師の実力育成



1

一貫体制に伴う豊富な診療機会の提供

あらゆる症例への対応を実践
それらを通じ、経験値を着実に積上げ

2

ベテラン医師からの技術継承機会の提供

臨床を通じて技術と知識を継承
当社病院は1拠点当たり約3人の獣医師を配置
複数の獣医師チームにより、若手が相談できる体制を構築

3

やる気に応じた人事登用システムの適用

マネジメント志向、職人志向など、各人の志向に応じ、
選択肢を提供
入社3～5年で病院長に抜擢も

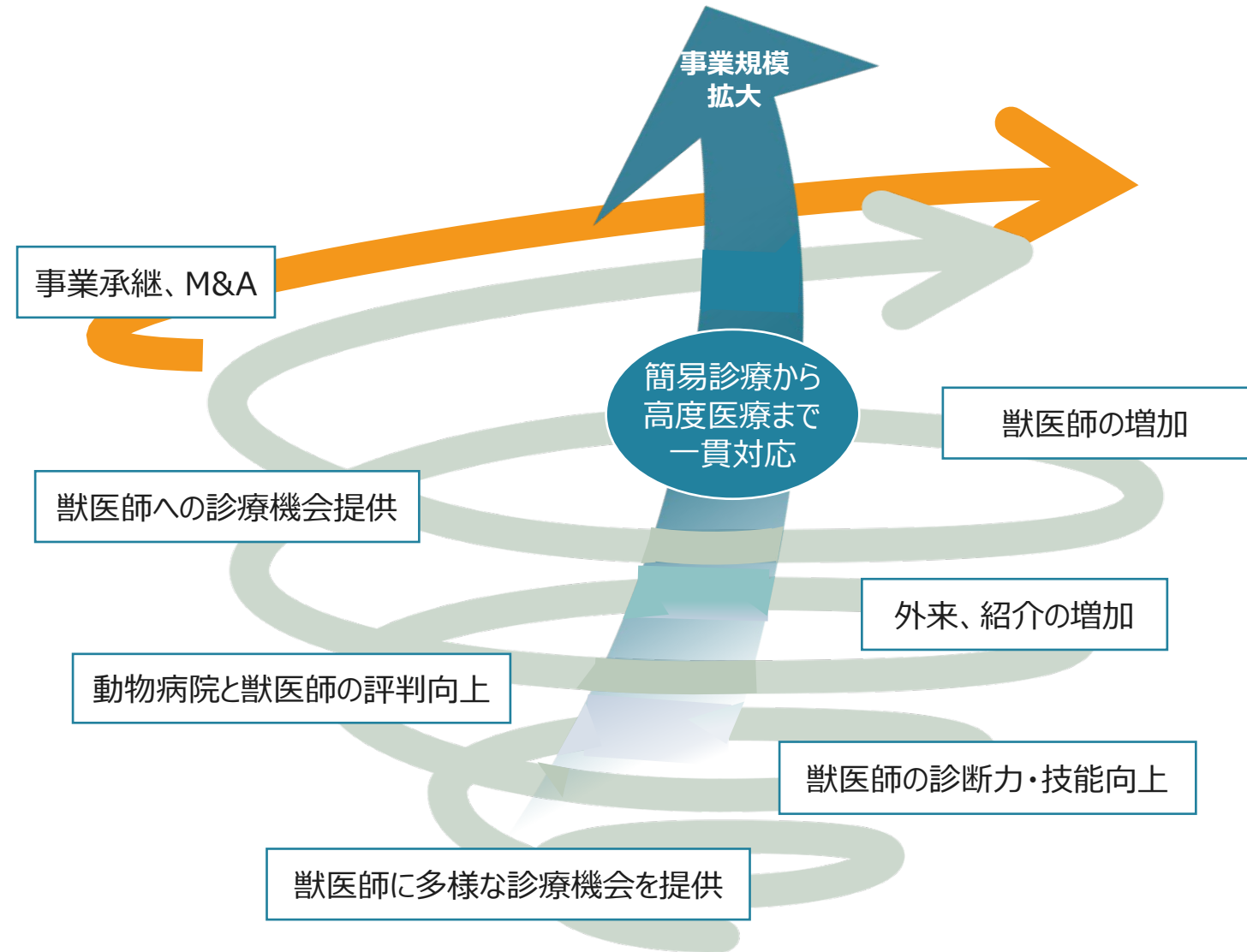
若手獣医師の早期戦力化を実現

自己増殖力

一貫対応を原点に獣医師の育成に注力した結果、ビジネスは好循環モデルを形成



- 一貫対応を原点に獣医師の育成に注力した結果、当社の顧客訴求力も上昇
- それが更なる診療機会拡大に繋がるという好循環を形成するという持続的事業規模拡大の循環モデルを構築





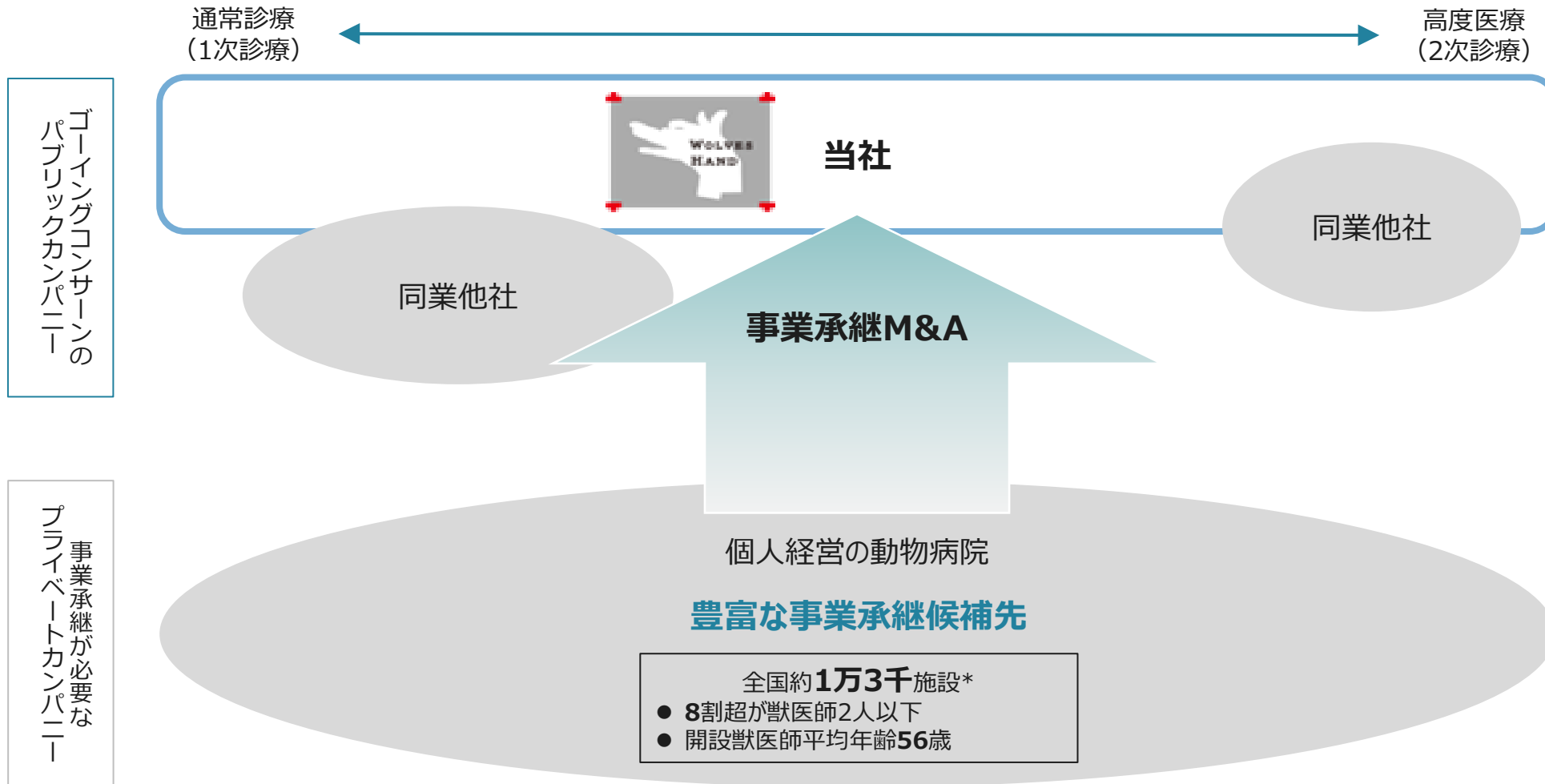
今後の戦略

3



事業承継・M&Aの積極的实施

- M&A及び事業承継のニーズが今後高まる中、当社は1次診療から2次診療までを一気通貫で実施している特性から受入範囲が広範
- 特性を活かして事業承継及びM&Aを積極的に推進（2024年8月に(株)そよかせ、2025年2月に(株)バハティのM&Aを実施）



*農林水産省HP「飼育動物診療施設の開設届出状況（診療施設数）」「獣医師の届出状況（獣医師数）」より当社作成



基本戦略と注力領域

- 成長加速に向けて、動物病院に付随する新たなビジネスも開拓
- 獣医師向け情報サイトの収益化、電子カルテの開発、共同研究による創薬・商品開発を想定

- 獣医師の診断力向上の加速領域



小動物臨床獣医師と獣医師を目指す学生を対象とした情報提供サイトの収益化

- 電子カルテなど顧客/会計管理などDX領域



AI技術を導入した電子カルテシステム開発への取り組みを開始

- 豊富な診療件数の臨床例活用



共同研究による創薬・商品開発
(→次ページ参照)



付随ビジネスの開拓

当社の豊富な診療件数を活用し、大手医薬品会社等との連携により創薬・商品開発

- 共同研究による創薬・商品開発領域では、当社の豊富な診療件数を臨床例として活用
- 当社研究機関と大手医薬品会社/関連商品会社との連携により、治療方法の研究開発を実施。施術手法や医薬品の開発にも注力
- 動物医療の発展を臨床以外の側面からもサポートするために幅広い領域で研究

創薬・商品開発のビジネススキーム

- 社内研究機能「動物先端医療研究所」を通じ、ペット用品関連会社や医薬品会社と提携
- 当社は保有する治験データを活用し、ペット用商品、サプリ、医薬品等の開発を支援。当社に追加的なコスト負担は発生せず
- 臨床・治験支援を可能とするのは、**シームレスな医療体制下において豊富な診療件数を有する**ため。ペット用品関連会社や医薬品会社が当社と連携する意味も大きい
- ペット関連用品では当社ブランドの活用を想定。提携先からは数量にリンクした当社商標権の使用料を収受。創薬関連でも当社貢献に合わせたレベニューシェアシステムを想定



当社

臨床支援

商標権使用料
レベニューシェア



ペット用品関連会社
大手医薬品会社

獣医先端医療研究所

- 2023年4月、社内に設置
- 動物医療に関する治療法等などの継続的研究
- 創薬や医療用品等の開発について他社と共同研究や治験等を実施
- 人員体制：現状3人
- 岡本芳晴獣医学博士を担当執行役員に登用（鳥取大学農学部獣医学科元教授）

岡本芳晴獣医学博士



- 特許、原著論文、著書、所属学会における活動、学会賞等の学術的表彰・教育表彰など、豊富な実績



共同研究契約等の締結状況

2025年6月時点において9件の共同研究契約等を締結

共同研究契約等締結先一覧（2025年6月末時点）

共同研究先	開始月	進捗状況	共同研究内容
株式会社日健協サービス エレメンツ株式会社	2024年 7 月	臨床試験中	天然酵母「生きてる酵母」を用いた小動物向けサプリメントの開発
C E L L 株式会社	2024年 7 月	臨床試験中	動物用癌再発予防のための新アジュバント(※1)の動物用医薬品化に向けた研究
株式会社Trans Chromosomics 第一三共株式会社	2024年 7 月	臨床にかかる 定例協議継続中	非ヒト動物用バイオ医薬品の開発のための臨床開発プラットフォーム共同組成にかかるコンソーシアム
株式会社Cancer Precision Medicine	2024年 7 月	臨床試験中	リキッドバイオプシー(※2)によるがんの早期発見に係る共同研究契約
株式会社ファーストクラス	2024年 8 月	臨床試験中	動物用幹細胞上清液の動物医療領域への応用にかかる共同研究
レキシシジャパン株式会社	2024年 9 月	臨床にかかる 定例協議継続中	磁気を用いた生体活性化によるペット用品等の共同研究
株式会社StateArt	2024年 9 月	臨床試験中	動物用リポソーム試薬とそれを用いたレーザー光線治療法に関する研究
株式会社トライアングル	2024年 9 月	臨床にかかる 定例協議継続中	動物用生体監視システム等の開発研究
株式会社マリンナノファイバー	2024年10月	臨床試験中	キチンナノファイバー(※3)試薬とそれを用いた創傷治療に関する共同研究

※1.アジュバントとは免疫賦活剤で、免疫反応を促進、増強させる物質です。一般的にはワクチンと一緒に投与され、ワクチンの効果を高めるために使用されています。

※2.リキッドバイオプシーは、血液などの体液を用いて疾患の診断や治療法の選択、治療効果の予測などを行う技術です。がん細胞から血液中に流れ出した微量な遺伝子変異を見つけられることから、がんの早期発見や適切な治療薬の選択、再発のモニタリングに有用であると考えられています。従来の組織生検に比べて身体への負担が少なく繰り返し検査を行うことができ、全身の状態をリアルタイムに調べられることが特長です。

※3.キチンナノファイバーとは、カニ殻などの甲殻類の外皮から「キチン」という糖質を超極細繊維(10～20nm)の状態に取り出したもの。ナノファイバーにすることで、従来のキチン粉末ではできなかった、水中での均一な分散性が実現され、他の材料との配合・成形が容易となっている。

2026年6月期 連結業績予測



- 高度医療の症例増加等による既存病院の収益性向上により**前期比+5.3%の売上成長を予定**しております。
- **自社開院及び事業承継・M&Aは業績予想には含めていないものの、積極的に推進を予定しており、成立時には業績予測に+αの上方影響が期待**されます。
- 経費削減等により利益水準の向上に努め、**営業利益で前期比+9.5%、経常利益で前期比+10.8%の増益を予定**しております。

(単位：百万円)

	2025年6月期	2026年6月期 業績予想	増減額	増減率	主な増減理由
売上高	5,463	5,753	+290	+5.3%	新規開院やM&Aは実施時期の不確実性があることから 予測には織り込まずに、既存病院の増収分のみを想定 。M&Aは継続して積極的に取り組むため、 M&A成立時には業績予測に+αの上方影響が期待 れます。
営業利益	909	995	+86	+9.5%	継続して経費の削減実施及び25年6月期のM&A等の一時費用減少により増加
経常利益	908	1,007	+99	+10.9%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	593	643	+50	+8.6%	
EBITDA ※	1,259	1,260	+1	+0.1%	

※EBITDA = 営業利益+減価償却費+のれん償却費

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本資料作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っており、またこれを保証するものではありません。

**【お問合せ先】
株式会社WOLVES HAND 経営管理本部**

**電話 : 06-6599-9106
Mail : info@wolveshand.jp**